

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、和合圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和4年6月27日（月）9時30分から11時10分まで
参加者	委員：11人 事務局：13人 その他：6人（圏域内介護事業所 6人）
場 所	和合せいれいの里 研修センター
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 住吉・和合、富塚地区生活支援体制づくり協議体 役員体制について 会長 1名、副会長 3名を選出。</p> <p>3 新規委員、関係機関 紹介</p> <p>4 協議内容</p> <p>①令和3年度 振り返り</p> <p>市社協より、パワーポイントを使用し、昨年度の協議体会議の内容の振り返りを行った。また、他地域での活動状況として、居場所づくりや協議体通信について紹介を行った。</p> <p>○富塚地区社協より、6月26日（日）に行った「生きがい活動発見講座」の内容について紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月26日（日） 富塚地区社協 2022 生きがい活動発見講座 ・地域ボランティアが「はじめの一步」～人生のキャリアが輝く 生きがい活動～ ・参加者 26名 ・グループワークでは、「自分の自慢できること」「自分の自慢をどのように生かせるか」などをテーマに話し合いを行った。 <p>②グループワーク</p> <p>（住吉・和合）家事支援活動・地域の助け合い活動の促進について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 家事支援活動の地域住民の浸透について 2) 家事支援活動に関わる人への広がりについて <ul style="list-style-type: none"> ・住吉にあるスーパーマーケットが改装工事を行っている。そのため買い物支援や買い物先に困っているという話をよく聞くようになった。 ・コロナ禍で外出をしない日が続き、体力低下につながっている。 ・自動車の免許返納について、家族にすすめられているが本人は買い物に困るため返納できないという方がいる。 ・民生委員として、月に1度友愛訪問をしているが、最近はもう少し訪問をする回数を増やしてほしいと言われることがある。 ・コロナ禍になり、「さみしい」、「孤独」といった意見を聞くようになった。 ・自治会の班ごとに見守りや災害時の声掛けを行う地域もある。 ・地区社協の家事支援活動についてPRをさらに促進していきたい。 ・回覧版などで周知を行っているが、あまり効果を感じない。一人ひとりへのチ

チラシ配布のような個別対応の方が理解を得やすいと思われる。

- ・誘い合って自ら参加できるようなサロンが必要。
- ・ゴミ出しが難しいという方から民生委員に相談がある。民生委員と地区社協との地域住民の困りごとの共有は必要である。
- ・家事支援活動の依頼については、少しずつ件数が増えている。
- ・自治会と協力し、家事支援活動の依頼募集と協力員募集のチラシを配布していく。
- ・民生委員活動は、独居高齢者か高齢者のみの世帯が見守りの対象となっている。そのため、家族と同居はしているが、日中独居高齢者が多く心配。日中独居高齢者を対象とした見守り活動が必要だと思う。

(富塚) 家事支援活動または、家事支援に限らない様々な地域活動への住民の参加を広げるために

- ・昨年度第1回協議体会議のグループワークで話した、ゴミ出し支援に関する協議を継続して行いたい。ゴミ出し支援をすすめていくとなると、現状の支援員が少ないということもあるため、担い手確保のための協議も必要となる。
 - ・自治会と協議して、集積所を小屋のように整備した地域がある。
 - ・地域の方がお互いのことを知らないというも背景として考えられる。
 - ・ゴミ出しの設備を整えるためにも資金や住民の理解、スペースが必要となる。
 - ・ゴミ出し、買い物に行くことができない人が増えているように感じる。
 - ・事業所などとも協議しながら、今ある資源で対応できることはないか検討していく。少しずつでもあると解決につながっていく。
- ⇒ごみ出しのニーズはかなり高まっている。利用者の傾向をみると、新聞をとっている世帯が非常に多い。新聞配達の際に、同時にごみ出し支援をしてもらえるといいかもしれない。また、個別対応として、ゴミ出しルール（時間、出し方）の緩和があるとよい。その上で、何ができるか検討する。
- ・自治会としては、誰が、どれくらい困っているかの把握が難しい。地区社協、民生委員と情報交換、連携をしていく必要性を感じる。
 - ・困り事について声を出してくれる人は少ない。声をあげてもらえる環境も必要。
 - ・高齢者に限らず、困りごと（ニーズ）を集めていく。
 - ・ボランティア活動を有償で行うことも必要ではないか。利用者負担ではなく、社会の制度として必要ではないか。

5 その他

- ・高齢者福祉課より、「70歳現役都市・浜松 やらまいか型人生年齢区分」の説明とウェットティッシュを配布した。
- ・次回日程については、後日お知らせする。

	6 閉会
今後の見通し等	今回の協議体会議では、各地区に分かれてグループワークを行った。それぞれの地区で活発にグループワークが行われ、地域でできることについての協議をすすめることができた。生活支援体制づくりとして、家事支援活動の周知や助け合い活動への地域体制で参加できる工夫などの支援を今後行えるようにしていきたい。